



まちの魅力を発信する

「行田の案内人」

新井喜広さん (63歳・佐間)

行田を訪れた観光客に、市内観光名所のガイドを行っている行田観光ボランティア会。同会の一員として、観光客にもてなしの心でガイドを行っているのが、今月紹介する新井喜広さんです。

生まれも育ちも行田の新井さん。「埼玉県名発祥の地である行田の魅力を、多くの方に知ってもらいたい。そのためには、ふるさとのことをもっと知っておかなければ」と都内の会社に勤務していたころから、行田の歴史や文化財について自主的に研究していました。「行田のことなら新井さんに聞けば間違いない」というほど、新井さんの郷土愛は、社内でも話題になるほどだったそうです。会社を退職後すぐに、古墳や国宝展示室などの解説を行う、県立さきたま史跡の博物館のボランティアとして第二の人生をスタートさせました。

同博物館のボランティア活動を始めてから1年後、知人から行田観光ボランティア会を



紹介された新井さんは、「古墳だけでなく、忍城址や古代蓮の里、足袋蔵など行田に存在する名所の魅力をすべてを紹介することができると、最高」と喜んで入会。早速、市の観光ガイドブックに記載されている情報を頭に入れ、各名所についての研究を開始しました。「初めてのころは緊張しましたが、先輩ボランティアが丁寧に教えてくれたので、すぐに自然体でガイドすることができました」と入会当時の思い出を語る新井さん。初めて担当した観光客から「分かりやすい案内で良かった」「また行田に行くよ」というお礼の手紙ももらい、観光ボランティアとしてやりがいを感じる事ができたそうです。

観光ボランティア会の一員となつて3年半が経過した新井さん。「観光客に少しでも喜んでほしい」という思いから、現在は、伝説など興味深い逸話も紹介するよう心掛けています。そのため、市の名所や史跡を題材にした書籍を読んだり、講演会があれば積極的に足を運んだり、研究に余念がありません。「映画『のぼうの城』の公開で、多くの観光客が行田に足を運んでくれると思います。行田に住んでいる皆さんが、自分たちのまちを訪れる方に案内できるといいですね」と新井さんは笑顔で話します。「これからもたくさんの方に行田の良さをPRしていきたい。私と同じ考えの方がいらつしやれば、一緒に観光ボランティアとして活動したいですね」と新井さんは「行田の案内人」として、今日もどこかで行田の魅力を発信しています。

新井さんは「行田の案内人」として、今日もどこかで行田の魅力を発信しています。

私の作品

俳句

忍 岡田 修

一里塚オアシスとなり麦の秋

緑町 鈴木喜久女

夏野来て淡々となる水辺かな

谷郷 斎藤 勲

紫陽花の揺るる蕾のまだ固し

下中条 飯塚よね子

田植終えほつと野づらの空気吸う

荒木 秋山 二郎

性分の田毎に見える植田かな

西新町 小宮 武旦

雨粒が降りて嬬やか花苜蓿

天満 青柳 欣吾

梅雨寒に予報みながらシャツ決める

谷郷 富山 由喜

心太憂きことまでもすすりおり

持田 田中 和夫

芋虫も我と一緒に軟葉好き

城西 山下 利江

入梅や雨降る街路傘の花

荒木 蛭間しげ子

新人戦梅雨の晴間の応援歌

谷郷 吉野 六郎

蓮の葉にころげてあそぶ雨あがり

城南 橋本千枝子

移り香を胸にしまし初浴衣

須加 蓮 陽子

紫陽花を仏壇供え夫偲ぶ

持田 伊藤 洋子

卯の花や退院せし義母背縮みぬ

(木島 斗川 監修)

『ピースアクセサリー』

(タティングピース)

宮川 たま枝 (長野)



◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにがき・封書で広報広聴課へ応募ください。



野口 璃夢ちゃん(柵田町)
父・真司さん 母・成美さん
平成23年8月5日生まれ
「キラキラ輝く笑顔でいてね♡」



加藤 あいらちゃん(向町)
父・直樹さん 母・麻美さん
平成23年8月24日生まれ
「あいらの笑顔は家族の癒し♡」



小林 芽姫ちゃん(長野)
父・亮介さん 母・美保子さん
平成23年8月4日生まれ
「イタズラ全開☆我が家のアイドル」



荒井 柚咲ちゃん(小見)
父・教晃さん 母・康世さん
平成23年8月27日生まれ
「いつも笑顔をありがとう♡」



田中 さくらちゃん(門井町)
父・慎也さん 母・亜紀子さん
平成23年8月4日生まれ
「お兄ちゃんと毎日笑顔でね」

平成23年10月生まれのお子さんを募集します

◎8月1日(水)～31日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
◎応募者多数の場合は、9月5日(水)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



さわやか サークル

月洋会絵画クラブ

～キャンバスに広がる無限の楽しさ～



独特で、どこか懐かしい絵の具のにおいが満ちる中央公民館の一室。毎月3回、火曜日に集まり、キャンバスに向き合っているのが、今月紹介する「月洋会絵画

クラブ」の皆さんです。絵に興味のある方で結成された同クラブは、昭和62年に活動をスタートしました。最初は筆使いも配色も戸惑うことが多かったという17人のメンバーの皆さんですが、今では吉野昭さんの指導のもと、足元に水彩絵の具や油絵の具、パステルなど多様な画材を広げ、自由自在に筆を走らせています。

普段の活動では、各自が花や人形などの題材を持ち寄り、大きささまざまなキャンバスに静物画を描いています。年に一度、モデルを招いて本格的な人物画制作を行っています。また、写生旅行では、雄大な自然を目の前に、それぞれの感性でキャンバスに風景を写し取ります。こうして日々描き続けている作品を、行田市美術展をはじめとする展覧会や市内の文化祭に出展したり、福祉施設などで展示したりと、同クラブは精力的な活動を展開しています。さらに、今年行われた第62回埼玉県美術展覧会では、入選を果たしたメンバーもいました。



「アドバイスを受けながら自由に絵を描いて、疲れたら気の合う仲間とお茶を飲み、語り合うといった活動が、私たちにとっては最高の創作環境なんです」と同クラブの皆さんはほほ笑みます。無限の楽しさが広がるキャンパスの上で、感じたことを素直に表現できる喜びを感じている同クラブの皆さん。上達の秘訣は、「まずは楽しんで描くこと」と語ります。

「見る人に感動を与える絵を描きたい」と目を輝かせる皆さんは、9月にコミュニティセンターみずしるで行われる第12回月洋会・絵画展を控え、日々作品作りに励んでいます。絵に興味がある方はもちろん、普段絵に接する機会がない方も、同クラブの皆さんがキャンバスに描く世界をのそぎに来てみませんか。

▼問い合わせ 金子 ☎556-333